

## Topics

### 裾野市と磐田市でトークイベント開催 各地元プレイヤーらがまちの未来語る

リノベーションまちづくりにおけるプレイヤーがまちの未来を語るトークイベントを、先月16日に裾野市で、同22日に磐田市でそれぞれ開催しました。

イベントでは、昨年12月に伊東市で開催した西村浩氏の講演を視聴後、各市内のローカルプレイヤーが各自の取組やまちの未来について意見を交わしました。



裾野市では、

- ・東京から移住して喫茶店を営む石戸康幸氏
- ・裾野市出身で立ち飲みもできる本屋を運営する菅沼祥平氏
- ・運営する酒屋が地元の様々な情報のハブになっている服部怜氏が登壇。

石戸氏は裾野について、「東京や都市にない、ゆっくりした時間が流れている」ことが良さだとした上で、「裾野はノイズが少なく、やりたいことに集中できるまち。『静かに入り込める』感じだ」などと、裾野のまちだからこそ今の事業ができているとしました。

続いて、一度東京に出た後、Uターンして家業を継いだ服部氏は、「登壇している2人ともそうだが、『つかず離れず』の距離感が裾野の良さ。それぞれ思いがありつつ、必要に応じて連携する『ゆるやかなつながり』が裾野らしさ」と語りました。

裾野市出身で、東京を経て、現在は三島市内で事業を行う菅沼氏は、「東京や三島に比べ、裾野は昔ながらの風景や良さが残っている」とした上で、「石戸氏や服部氏の活動をはじめ、面白い活動が徐々に広がっている」として、更に面白いまちになることに期待を寄せました。





一方、磐田市では、

- ・メイン通りでクラフトビール屋の運営をしながら、まちづくりを行うゴトウマサユキ氏
- ・美容師業の傍ら、磐田駅の隣駅「御厨駅」周辺でイベント等を主催する川島靖貴氏
- ・山間部で事業を行いながら、地域を担う人材の育成にも力を入れる川合伯員氏が登壇。

ゴトウ氏は磐田のまちについて、「エリア価値が向上したり、暮らしていて楽しいまちになったりしたらいい。9年前に構想し、取組んできた」とした上で、「空き家や空き店舗といった余白を常に見つけ、マッチングさせていきたい」と話しました。

川島氏はイベントを開催する理由について触れ、「御厨駅を盛り上げることで、磐田全体を底上げしたい。子どもたちが帰りたくなる場所にできれば」と想いを語りました。

川合氏は今後について、「地区以外からの外貨を稼げる子どもたちが育つ場所、住み続ける場所にしたい。自ら海外法人を立ち上げるなどにより、背中を見せていきたい」と展望を語った上で、「中心部・御厨駅周辺・山間部が繋がっていくと面白そうだ」と、今後の展開に期待を寄せました。